昭和五十八年度定期総会開かる

創立十周年祝賀パーティーはなやかに

昭和五十八年度三翠化学会定期総会は去る五月十五日午前十時三十分より三重大学農学部大講義室にて開催された。本年は昭和四十八年に設立されたこの三翠化学会の創立十周年に当りまた当三重県支部の設立記念も兼ねるとのことで、来賓七名を含め八十六名の参集を得て、盛況のうちに行われた。

総会は渋谷明副会長（大4）の開会の辞で始まり、岡田芳次郎会長の挨拶につづいて、赤木盛郎先生より創立十周年の祝辞をいただいたのち、若林長生氏（専1）を議長に、議事録署名人に田中実氏（大20）を選出し議事が進められた。

まず古市幹事（大13）から昭和五十七年度事業報告、小畑幹事（大15）から昭和五十七年度会計報告、つづいて福田監事（大1）から会計監査報告がなされいずれも別表の通り承認された。次に本年度は役員改選期に当るため、新役員の選出が行われ、理事十八名、監事二名が承認され、福田新理事（大1）の提案により、会長には引き続き岡田芳次郎氏（専1）の留任が決定した。ここで岡田新会長の挨拶があり、会長より幹事と今年度評議員が指名委嘱された（役員・評議員は別掲の通り）。つづいて昭和五十八年度事業計画が小山幹事（大20）から、同予算案が田口幹事（大17）から提案説明がなされ、いずれも別表の通り承認された。つづいて三翠化学会基金について嶋田基金運用委員（専3・大6）より昭和五十七年度事業及び決算報告がなされた。次に福田監事より基金監査報告がなされ、いずれも承認された。最後に前述の様に本年は三翠化学会創立十周年を記念し、嶋林理事（専1・大2）より記念植樹を行うことが提案報告され、承認を受けて総会を閉じた。

ここで欅（ケヤキ）の記念植樹式を農学部正面（二年学生実験室横）で行なった。この詳細は別の記事にゆだねることとするが、総会に御欠席の方々で来学されました際には是非御覧下さい。

なお総会に引き続き三重県支部設立総会が開かれ、ここに三翠化学会の第三番目の支部が発足した（これに関しては別掲の通り）。

懇親会は、津駅に近い三重県社会福祉会館で盛大に行われた。今回は前述のように三翠化学会創立十周年と三重県支部設立を記念した祝賀会として行われた。そこで、森邦男農学部長（農業機械学科教授）、東畑幸祐三翠会三重県支部絡連協議会代表（農13）、滝、奈良、北岸、赤木、柏村の各先生をお迎えして開催された。

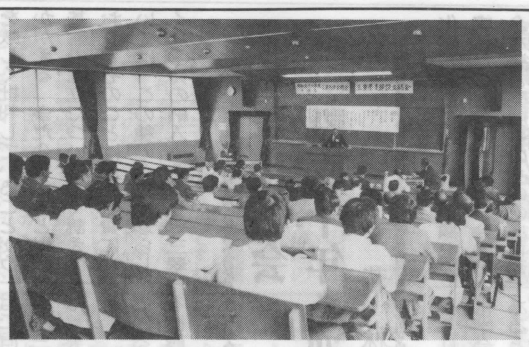
午後一時、杉崎護氏（大16）の司会のもとに開会、岡田会長の挨拶に続いて、森学部長の祝辞ののち、三重県知事の祝辞を東畑代表が代読、引き続いて同氏により連絡協議会の祝辞をいただいた。

つづいて滝、岩本両先生の御叙勲と、奈良、北岸両先生の御退官をお祝いする花束贈呈の予定を変更し、乾杯を先行、赤木先生に音頭をとっていただいた。

滝先生の御来場を待って（岩本先生は御欠席）、滝、奈良、北岸の三先生に対し、同窓生を代表して嶋林幸英氏（専1）からお祝いの言葉を、市川陽子氏（専3）、伊藤ますみ氏（大3）、杉崎清子氏（大16）の三女性会員からそれぞれの先生に花束を贈呈、お祝い申し上げた。

三先生からお言葉をいただいたのち、三重県支部設立に対し東海支部長別府宏氏（専1）の祝辞、渡辺三重県支部長の挨拶があり、宴たけなわとともに赤木先生の詩吟、今西勝氏（専1）のエレクトーン演奏、伊藤芳直氏（大6）のバリトン歌唱とつづき、はなやかな女性会員をたすけて、市内の名花が色をそえさらに宴を盛り上げた。

最後の締めくくりの応援歌は今西氏により、エレクトーンを奏でながらのリードで合唱し、松村昌美氏（専1）の音頭で万歳三唱、なごりを惜しみつつ午後三時すぎ、会を閉じた。



農学部大講義室での定期総会㊤

祝賀パーティーでの会長挨拶㊨と乾杯㊦

三翠化学

（題字は稲川先生）

第19号
昭和58年8月31日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学科内
電話／津〈0592〉32－1211
振替／名古屋9-59345
印刷／株式会社あ

昭和57年度三翠化学会事業報告

S57年5月17日	第1回役員・評議員会
5月23日	昭和57年度総会（洞津会館）
7月8日	第2回役員・評議員会
8月31日	会報第17号発行
S58年1月29日	第3回役員・評議員会
3月15日	第4回役員会および基金運用委員会
3月31日	会報第18号発行

昭和58年度三翠化学会事業計画

S58年5月6日	第1回役員・評議員会 基金運用委員会
5月15日	昭和58年度総会（於三重大学農学部）
7月	第2回役員・評議員会
8月	会報第19号発行
12月	第3回役員・評議員会
S59年3月	第4回役員・評議員会
3月	会報第20号発行

昭和57年度三翠化学会決算報告

✣収入の部（単位：円）—	
前年度繰越	243,050
会費	602,000
雑収入	40,059
計	885,109
✣支出の部（単位：円）	
会報印刷費(17,18号)	339,000
郵送通信費	194,300
会議費	128,360
人件費	97,500
事務費	32,545
三翠会昭和57年度負担金	30,000
慶弔費（故石川先生，奈良，北岸両先生）	33,840
計	855,545
✣差引残高……	29,564

昭和58年度三翠化学会予算

✣収入の部（単位：円）	
前年度繰越	29,564
会費	700,000
雑収入	50,000
計	779,564
✣支出の部（単位：円）	
会報印刷費(19,20号)	300,000
郵送通信費	200,000
会議費	100,000
人件費	80,000
事務費	30,000
三翠会昭和58年度負担金	30,000
支部設立補助金	20,000
予備費	19,564
計	779,564

昭和57年度三翠化学会基金会計報告

✣収入の部（単位：円）	
前年度繰越	2,540,053
預金利息	60,100
計	2,600,153
✣支出の部（単位：円）	
57年度卒業生記念品（シャープ）	41,600
こうより	30,000
58年度新入生歓迎会	30,000
計	101,600
✣差引残高……	2,498,553

✣資金管理内容（単位：円）	
郵便定額預金	1,900,000
内訳：年利8.84%もの 180万円	利共概算 227万8千円
内訳：年利4.81%もの 10万円	利共概算 10万5千円
国債（60万円）	597,340
郵便預金	1,213
計	2,498,553
（基金概算……298万3千円）	

会長あいさつ

十年の歴史の上に立って

岡田芳次郎

三翠化学会設立十周年を迎え新たな出発点に立っておりますが、今回重ねて第六代会長に四選され、責任の重大さを痛感致しております。会員各位におかれては、旧に倍しての御支援を役員諸氏におかれては、より一層の御協力をお願いして、本会の一層の発展強化を図りたくお願い申し上げます。

顧みますれば、昭和四十八年十一月二十四日三翠化学会設立以来十年を経過し、今や会員一〇〇〇名を擁する一大組織に発展し、その間、組織強化を目ざして、昭和四十九年には関東支部・三重県教員支部・三重県庁支部、五十三年には東海支部が結成され、地域・職域ごとにそれぞれの御活躍がなされておりますが、さらに今回は三重県支部が結成されることになり、既設の教員支部・県庁支部を大同吸収して、去る五月十五日設立されました。

今期におきましては、十周年を記念して「ぜひ関西支部の結成を！」を組織としての大目標として掲げ、その実現に向って自主的な盛り上がりと、組織としての活動を展開して参りたいと存じております。

さらに、化学会の活動の活性化・基金のより一層有効適切な運用を期すべく、会員各位の御意見を反映したいと存じておりますので、宜しく御協力をお願い申し上げ、会長就任の御挨拶といたします。

昭和58・59年度 三翠化学会役員

会長　岡田芳次郎（専1）
副会長　中川潔彦（専2）、高橋孝雄（大6）
理事　若林長生(専1)、嶋田協(専3)、鈴木幸郎(専3)、福田映(大1)、服部圭助（大2）、辻村恒(大3)、今井滋（大9）、鈴木克巳(大12)、杉崎護(大16)、辻静夫(大19)、古山順啓(大24)、近藤隆(大29)、長瀬和雄(専1・関東支部長)、別府宏(専1・東海支部長)、渡辺和己(専1・三重県支部長)
監事　今西勝(専1)、渋谷明（大4）
幹事　嶋林幸英(専1)、藪本義雄(大4)、古市幸生（大13）、小畑仁(大15)、田口寛（大17）、小山司朗(大20)、田中実（大20）
評議員　倉田三郎(専1)、佐々木敏雄(専2)、奥田孝夫（専3）、清水利一(大1)、小林重一(大2)、闇雲明男（大3）、稲葉五郎(大4)、水谷栄三(大5)、豊田治男(大6)、林雅敏（大7）、長谷川正一（大8）、竹尾熙方(大9)、伊藤道子（大10）、林真栄（大11）、今西康隆(大12)、庄山正敏（大13）、西元勝也(大14)、坂本一泰(大15)、酒井敏秀（大16）、平田秀彦(大17)、内藤茂三(大18)、竹田高資(大19)、坪内一夫（大20）、田中忠（大21）、古川公男(大22)、寺沢修平(大23)、中林徹(大24)、田中完爾(大25)、菅原博（大26）、中北隆也(大27)、錦見喜夫(大28)、前川重樹(大29)、河村龍二郎(大30)、草川一樹（大31）、駒田洋（院）

基金運用委員会委員

委員長　岡田芳次郎（専1）
庶務担当委員　福田映(大1)
藪本義雄（大4）
会計担当委員　嶋林幸英（専1）、辻村恒（大3）
委員　中川潔彦(専2)、服部圭助(大2)、高橋孝雄（大6）、長谷川正一（大8）、中北隆也（大27）
会計監事　今西勝(専1)、渋谷明（大4）

「こうより」へ投稿のお願い

農芸化学科の教官、卒業生、在学生を結ぶ機関誌「こうより」二十七号を発行すべく、今、準備を進めています。

今回は、先輩からの投稿記事で特集したいと企画いたしました。

在学生にとっては、各界でご活躍の先輩方からのお便りが将来をきめる大きい指針になります。皆様方の近況、在学中の思い出、エピソード、解説、エッセイ等何でも結構ですから、数多くご投稿いただければ幸甚の至りです。

また、この「こうより」を育てていただくためにも、一人でも多くの先輩方に購読していただきたいと願っています。二十六号までの在庫もあります。左記宛に申し込んでいただきますようお願いいたします。

〒514 津市上浜町一五一五
三重大学農学部
農芸化学科
こうより編集委員会

〈総説〉三翠化学会 設立十年を迎えて

専1　若林長生

三翠化学会は昭和四十八年十一月二十四日、三翠会館で設立総会をもち、本年で十年を経過したことになる。当時の状況は「日本列島改造論」からくる土地価格の異常な値上り、石油ショックにともなう狂乱物価に明け暮れた時期でもあった。また公害問題等で企業や行政当局が厳しく糾弾され、保革伯仲といわれる中で革新首長が各地で続々と誕生していた。人間を大事にしようという発想から、すべての福祉施策が最優先され、高度成長による財源の増収で気前よくバラまかれており、いまになってみれば〝一億総タカリ〟〝一億総甘え〟の気持ちがかなり濃厚に残されていた時代でもあった。戦後の混乱期を切り抜け、虚構の繁栄にしびれていたものが、いろいろの矛盾や要素がゴッチャ混ぜにされて一挙に吹き出され、みんなが右往左往しているときに我が三翠化学会は発足したのである。

「三翠化学第一号」の総説をみるとこんな時代背景の中にあっても〝天は自ら助くる者を助く〟〝与えよ、さらば与えられん〟といったことを強調しており、何事につけても他人に責任を転嫁したり、他から取れるものは何でも取ろうといった風潮を厳しく批判していることがうかがえる。また会費納入と財政基盤の確立について強く訴えており、そのことは現在会費については、この種の会には珍らしく八〇%の納入率を誇り、三翠化学基金についても目標額を達成したことは、三翠化学会の健全な姿と発展そのもののあらわれであるといえる。

いずれにしても、三翠化学会はこの十年、決して平坦な道ではなかったにしても着実な歩みを続けてきた。当初、この会を設立するとき他科出身の先輩から、一時的な熱意にかられて創ることは簡単だが、それからの維持発展が大変だと忠告され、随分と不安な気持ちをいだいたものであるが、学内会員の献身的な努力と会員諸氏の協力によって今日の発展をみていることはご同慶のいたりである。

「三翠化学」の発行も年二回は着実にこなし、毎年もたれる総会、支部総会も盛大にもたれている。また年数回は開催される役員会でも勤務後の時間をやりくりしての出席であり、三翠化学会を愛するがゆえの会合であるといえよう。

母校とか同窓というものは功なり名を遂げた者ばかりが集まるところではない。お互いに社会的な地位や立場にこだわることなく、本当の意味での平等と民主的な機能が作用する最大にして最高の場であるが、三翠化学会はそのことが象徴的にあらわれている同窓会といえる。

お互い社会生活をする上で、仕事を進める上での第一歩は相手を確かめることから始まるものである。そのことはどんなに至難なことであり、手間がかかることかは各人のそれぞれの体験の中で痛切に感じていることであろうが、相手を確めたら事柄のほとんどは成就したとしてよいものである。それがお互い三翠化学会の会員であるということで、クドクド説明することもなく確め合えることは大きなメリットでもある。

何事も十年といえば節目である。これからの三翠化学会は人生でいうと壮年期を迎える。会員も千名を超える会となった。今後の歩みと発展に不安と疑念を感じるものはないが、これからの時代は一段と各人の責任と役割が問われ、強調されることが予想される。幸い三翠化学会はそれらのことを十分にわきまえそれにふさわしい能力をもつ賢明な諸氏の集団である。各分野での会員のますますの発展と活躍を祈念し期待したい。

職場紹介

竹本油脂株式会社

大20　高須淑夫

「蒲郡」といっても、すぐに場所が頭に浮かぶ方は少ないかも知れません。三河湾国定公園とか、竹島（記念切手になっています）、三河湾スカイライン（湾の眺めは、一見の価値有りです）、そして「西浦温泉、形原温泉、三谷温泉」、さらに、知る人ならば知っている「蒲郡競艇」等々説明を付ければ「わかった！」とくる人が多いと思います。

「竹本油脂株式会社」は、その蒲郡のほぼ中央の海岸近く、東海道線蒲郡駅の南に接し、従業員数約四〇〇名、油脂関連の工業原料及び食用油としての胡麻油を製造する中堅企業です。

創業は、一七二五年。以来一貫して搾油業を営み（社史によれば、製油業としては、日本最古の伝統を持っています。近くに御油という地名も残っています）、胡麻油の生産量は、日本一を誇っています。

事業は、大別して製油部門と界面活性剤部門の二本から成り現在では、創業来の製油部門から界面活性剤関係に主体は移っています。

製油部門は、先程紹介した胡麻油を中心に、胡麻粕肥料、飼料や胡麻関連食品等の生産を行っており、界面活性剤部門では繊維工業用油剤、土木建築用油剤を主軸に農業・金属・製薬等、種々の分野で使用される油剤を開発しつつあります。また、界面活性剤製造の技術を発展させ新しい工業原料への移行もなされつつあります。ところで「油剤」という用語を用いましたが、これは「油脂（天然・石化系）主成分の薬剤で、その物理的・化学的性質を利用し、各種工業（原料・製品）に特異的な性能を付与するもの」と理解して戴ければよいと思います。たとえば、繊維工業用油剤なら繊維工業の諸部門、工程、製品の段階で素材としての繊維に要求される諸性質（潤滑、帯電防止、損傷防止から染色性、触感・肌ざわり、防汚、さらには、羊毛用布の洗剤等）を付与する「油剤」であり、土建用として、コンクリートに混和し、その性能・性質を改質する油剤があり、農薬やその他乳化剤等があります。特に繊維用油剤では、本邦首位級の実績を持っており、海外にも積極的な進出が計られ、着々と成果があがっています。

ところで、現在竹本油脂には三重大出身者が七名おります。うち六名が農芸化学で、年齢（失礼！）順に紹介しますと、日々野星二氏（大10）、当人の弁で云うと「中間管理職の悲哀を咬みしめて…」。杉本貢氏（工大10）、東京でコンクリートを嚙ってみえます。菊山幹夫氏（大11）、同じくじく東京営業所。榎本雅紀氏（大17）、本社第二事業部総括管理課という恐しい名前の所にみえますが、栄養化学専攻室の逸話にも残るやさしい紳士です。三浦豊司氏（大19）、コンクリート混和剤用の原料を製造するために我社で初めて、発酵の技術を確立した先輩。そして私、高須淑夫、繊維用油剤の開発を担当しています。七人目は、工学部（工業化学・昭・50卒）出身の藤井吏君、繊維用油剤の担当。また大先輩として、竹本合名会社山林部に、黒野隆氏（大5）がお見えになります。

最後に、事業に関連する学問分野が幅広く多岐にわたり、並の能力しかない私としては苦労する所が多いのですが、ある意味では、自分を生かすチャンスの期待できる会社だと思っています。そんな気持ちでOB全員頑張っております。もし、こちらに来られる事がありましたらぜひお立ち寄り下さい。

追・「蒲郡―がまごおり」の由来がどこにあるのかと思っていた所、先日海辺の沼沢地跡に蒲（がま）の郡生のなごりを発見しました。

職場紹介

サンジルシ醸造株式会社

大28　松永正好

拝啓、T君、御元気ですか。早、卒業して四年にもなり、T君がどうしてるかなと思いこの場を借り、一筆認めることにしました。

さて、T君、私の会社のことはだいたい知ってますね。学生時代に工場見学に来たことを思い出して下さい。簡単に言えば味噌・醤油製造・販売及び酒類問屋です。場所は、近鉄益生駅歩いて十分、線路沿いに建っているのがわかります。私の家から電車で二十七分、車で十五分の所にあります。

話しは変わりますが、T君は学生時代、〇〇〇〇部で活躍したし、良くみんなとボーリングに行ったものでしたね。今は何かやっているんですか？　私の所では、現在、ゴルフとテニスが社員の中で盛んです。特にゴルフは、会社コンペはありましたが、製造部コンペが盛大に開催されるくらいになり、平均年令が二十五・六才ぐらいですね。テニスの方はと言いますと会社にコートが二面あり、一年前ぐらいですと、片面で三、四人が打っていただけですけど、今ですとあのオッサンが？と言う人までが昼休みに楽しんでいます。もちろん、T君も知っている通り、硬式テニス部だった私もテニスを楽しんでいます。しかし、ゴルフはというと、ボーリングなみの数字しかでません。

さてさて、無駄話ばかりでは当社におられる三翠化学の先輩達に申しわけありませんので、自分の仕事ならびに諸先輩について、思いつくままに書かせていただきます。

まず、第八回卒、木村晴雄氏、それからずっと飛びまして第二十四回卒の侘美明正氏、第二十五回卒の中西共則氏、そして私の四名です。その他に三翠のメンバーとして、農村工業実科第九回卒の畑中（西井）六郎氏（製造部次長）、同十四回卒の中村直正氏（営業本部長）、同十回卒の野村宏氏（技術部長）、別科第十五回卒の高橋渉氏が、在籍しております。

私は入社後一年の実習ののち研究室に配属され、侘美氏の下で基礎的な仕事をやっていたのですが、わずか半年で一人立ちの浮き目に会い、それ以来ずっと味噌の品質管理・研究開発を一人でやっております。

世間では、味噌・醤油は不況も安定しているから良いですねとは言われますが、だいたいがシェアが固定していて、大きな伸びが期待できず、へたをすると落ち込む危険性があるのはどこでも同じです。そこで、将来に、ナンバー3的存在の商品開発の必要があって、木村氏と侘美氏が従来からの仕事を離れて新しく設立した食品部門で活躍しております。この中で生れたのが、宣伝もされているので知っていると思いますが、「即席生みそ『恋女房』」です。他にも、製品化の段階のもの、レシピーだけのもの、数では数百はくだらないものと思われます。

木村氏は、現在の仕事の前は研究室の中枢として指導に当っていられたのですが、現在、製造から営業の仕事を優秀な部下と共に体にムチ打って頑張っておられます。

また、木村氏の優秀な部下である侘美氏は、文字通り手となり足となり頭となり頑張っておりますが『手足だけでよい』と本人曰く、学生時代ラグビーで鍛えた体は少し肥満とはいえ、まだ健在であり、会社のコンペで二度優勝の経験の持主です。私は侘美氏には、公私ともに御世話になりっぱなしで、恋愛問題からしまいには、結婚式の司会まで御無理を言いましたが、侘美氏の司会は天下一品ですので一度頼んでみたらどうです。

ところで、日本では、各企業や子供から年寄りまでがOAとかマイコン、テレビゲームというコンピュータを扱う人（所）が増えてきてますが、当社でも資材・製品管理や売上げ実験等をコンピューター処理をすることになり、抜てきされたのが中西氏です。彼は非常にまじめでやさしく、一見してあまいマスクもテニス、ボーリングをすれば、女性的に見えちゃうのでも、こつこつと積上げていく力には尊敬せずにはいられません。

中西氏には悩みがあるのです。それは、一生の伴呂が見つからないのです。誰か紹介して下さい。（私の独断です）

私はつくづく思います。先輩達の悩みの種ではと、公私共に御迷惑ばかりかけております。この私も、もう四年目を迎え、味噌を担当して二年とわずか、仕事も増え、責任も増してますが、諸先輩に教えを乞い、見習い、この道のエキスパートを目指し「人間万事塞翁が馬」の気持ちでくじけず、体当りで頑張って行こうと思っています。

何分、ラブレター以外書いたことがないので乱文のお詫びと最後まで読んでいただきありがとうございます。

それでは、T君も頑張ってやって下さい。

敬具

農芸化学科近況

▼九月一日付で小畑仁教官が土壌学・肥料学講座助教授に、田口寛教官が生物化学講座助教授に昇任された。

▼栄養化学・畜産物利用学講座の古市幸生教官が四月二十三日付で九州大学より農学博士の学位を授与された。論文題目は「水溶性消化吸収指標物質としてのポリエチレングリコール及びポリビニールアルコールに関する研究」。

▼醗酵学講座の嶋田協教官が八月十八日から二カ月間、マサチューセッツ工科大学へ文部省短期在外研究員として出張中。

クラス会だより《大六回卒業生》

伊豆にて二十五周年のクラス会を開催

我々六回卒業生は昭和三十三年卒業以来、十周年は津市、十五周年は榊原温泉、二十周年は名古屋市と母校近辺で五年毎にクラス会を開催して来ました。二十五周年のクラス会は東京方面で開いたら如何との提案が母校に奉職する高橋氏等よりなされ、これを受けて東京在住の加納、川内両氏と吉野が承り、歴史と文学の地、伊豆天城湯ケ島温泉白壁荘に岩本、奈良両先生の御出席を迎え、六月四日、二十五周年のクラス会を開催しました。

午後七時に出席者十五名集合し、開会の辞の後に岩本先生の乾杯の音頭で再会を喜び合い、次いで両先生の近況と名簿順による出席者の自己紹介が続きました。杯を重ねる程にあちこちに内陣が出来、在学時代の思い出、職場の現況、家族の事等々語り合い、その中には会社人間らしく会社・商品のPRもチョッピリ出たりしました。

酔う程にカラオケ大会と化しましたが、時間切れのため会場を移し、バーでのカラオケや露天風呂につかったりして楽しい一夜を過しました。

翌日は晴天にめぐまれ、大杉、西沢両氏を除いて車に分乗し、昭和の森会館に行き、森と人とのかかわり合いをテーマにした『森林博物館』及び伊豆ゆかりの文学者の原稿や作品を展示した『伊豆近代博物館』を見学しました。ここでツナギ服の本格的ライダースタイルの倉本氏が50cc二輪車でサッソウと帰途につきました。

次いで、浄蓮の滝を訪れ、雄大な眺めを満喫しました。特に岩本先生は丁度、五十年前の一高生時代、ここを訪れたとのことで青春時代に思いをはせてみえました。その後、西伊豆スカイラインをドライブし、上に秀峰富士、下に駿河湾を見て下山し、昼食後、韮山の洋式反射炉を見学し、伊豆長岡駅にて五年後の再会を約して解散しました。

最後に、今回のクラス会で物心両面で尽力してくれた加納氏に感謝の意を表します。

〈出席者〉

伊藤、大杉、加納、川上、川内、倉本、杉本、高橋、豊田、西垣、西川、西沢、服部（英）、松尾、吉野の各氏。

（吉野　記）

社会人一年生

◇◇◇◇◇◇◇◇

大31

稲垣 卓次

新社会人として

今年の四月一日、三重県庁にて知事から辞令が交付され、四日市農業改良普及所に勤務し始めてから、早半年近くが過ぎようとしています。今でも時々、公務員の強みで土曜日の午後、大学に遊びに行くのですが、その度に学生の自由さに圧倒され自分が社会人であることを痛感しています。

さて、私のやっている仕事、即ち農業改良普及とは、農家と直に接し、現場対応で種々の事業を進めて行くことも然ることながら、農業者に対し、行政のデスクワークでは出来ない木目の細かな指導、教育、啓蒙を施こすことによって、考える農民・自立経営者を育成することであります。その為に常に農協、市役所、町村役場との連携プレーが成されております。その仕事場である農業改良普及所は、地域指導課・青少年専門技術課・生活改善課に分かれており、私は青少年専門技術課に席を置いて茶の栽培、製造指導及び農業経営を担当しておりますが、農芸化学の分野と殆んど重複するところが無く、少々苦労しているところです。

今、やっと所内の雰囲気にも慣れて、自分のやるべき仕事は何か解ってきたところですが、これから農業改良普及員のプロになるよう頑張って行きたいと思います。

◇◇◇◇◇◇◇◇

大29・院16

岩田 将司

私も農業高校一年生

私は、今年四月から社会人一年生として奈良県立田原本農業高等学校に勤務しています。自宅から徒歩五分という実に恵まれた職場なのですが、近すぎて困る部分もかなりあります。クラス担任ではありませんが、副担任ということで担任の先生にいろいろと教わっています。担任の先生にしてみれば、一年生のクラスということもあって、厄介な新入生が一人増えたようなものではないでしょうか。

農業高校という所に通うようになって早四ケ月が過ぎましたが、自分の高校時代とは全く違った現実と、自分も高校時代はそうだったなあと感じる二つの現実があって、理解に苦しんだり、感激したりといった忙しい日々を送っています。また、覚えなくてはならないことがたくさんあります。なにせ、赴任したその日から生徒に対しては、一人前の教師として接していかねばならないうえに、何のガイダンスもなく、便所の位置もわからない有様でした。それが、四ケ月余たってやっと校内の大部分の位置関係がわかってきたかなという程度です。それでも今だに一度も入ったことのない部屋があったりします。

授業では、二、三年生ともなると先輩風を吹かせる生徒がいたりして、どっちが教師で、どっちが生徒かわからなくなる時があります。

生徒は一日ごとに、いやもう次の瞬間には変化しているにもかかわらず、なかなか対応しきれずに悩んでいます。しかし、私も今年入学した二年生と同様に、この一年生が卒業する頃には、一つのステップを卒業できるように頑張っていこうと思っています。

◇◇◇◇◇◇◇◇

大29・院16

近藤 隆

in putに励んでいます

会社に入ってほんの数ケ月、まだ研修が終ったばかりで社会人と呼ばれるのも恥ずかしいというのが今の状態です。学校から会社へという大きな環境の変化に初めは戸惑い、今なお学生気分が抜けていないと指摘されます。

新入社員としての今の時期、やたらin putする事が多いので大変です。電話の受け取り方から来客の対応に始まり、食品関係の専門知識、法的知識、分析機器や各種機械の取り扱い、さらに業務知識や業界に関する知識、加えて語学等々。しかも、これらin putしたものをすぐにout putしなければならず、時にはin put以上にout putを要求される点に学生時代との大きな差を感じます。

私達新人は経験とか技能とかいった面ではとても先輩達に立ち打ちできません。しかし知識という点では、本人の努力しだいで案外早い時期に先輩に追いつくことができるでしょうし、あるいは追い越すことも可能です。したがって今は、なるべく多量で、しかも効率的なin putに努めております。

今考えると、学生時代はもっぱらin putの時期であったはずなのに充分にそれを生かせなかったことを反省しております。

◇◇◇◇◇◇◇◇

大31

加藤 純子

失敗の連続の毎日です

〝社会人一年生として一言を〟とのことですが、何しろ成り立てのホヤホヤ、まだ湯気が立っている状態で、社会人なんだなあと感じるのは映画館で〝大人〟料金を払う時ぐらいでどうもピンとこないのです。

先ず私の勤め先は、(財)三重食品分析開発センターと言う所で、仕事は食品中の微生物の検出及びリゾチーム活性の測定です。

よく人から、大学で習ったことを活かせてよかったねと言われるのですが、実際は習ったことの十分の一も活かせていないのです（学生時代の不勉強の為?）。毎日が新しい知らないことの連続で、ただ先輩方に付いて行くだけで精一杯です。自分の失敗で周りの人に迷惑をかけないようにと思えば思う程、気ばかり焦って余計に失敗を重ねている私です。

毎朝六時一〇分に起きて出勤し、日曜日の休みを待ち望んで一週間を過しています。一日、一週間の速いこと速いこと。学生の頃は、暇はあってもお金がない。勤めれば勤めたで、お金はあっても暇がない。まったく世の中うまくいかないものです。遊びには行きたいし、本を読む時間もほしいし、ボーとする時間もほしいし、勿論寝る時間もいっぱいほしいし、一日が四十八時間あればいいのに。

社会人一年生として一言をというのに、くだらないことばかり書いてすみませんでした。明日も朝早いので、もうおやすみなさい！

今、私は…

省資源無公害を旗じるしに 有機物質の立体選択的合成を展開

大15　馬場 直道

年月の立つのは早いもので国鉄京都駅から出ている奈良線の黄檗というところにある京都大学化学研究所の植物化学研究部門に修士学生として入ってすでに十六年を経てしまいました。そして、その間二人の教授が退官されました。一人はピレトリンの研究で知られる大野稔名誉教授（他界されている）が、昭和四十七年に、またもう一人は不斉合成の研究で知られている井上雄三名誉教授が本年の四月に退官されました。私はこの先生方の両分野に渡って一学生として、一助手として研究させていただきました。現在研究室は助教授一、助手二、学生三、事務員一、研修員一という構成ですが、研究内容を簡単に紹介しますと、蚊取線香や殺虫剤に入っているピレトリン系物質は熊沢先生の講義にありましたように八種類の異性体を持っており、それらの異性体間には効力に差があります。この事実が出発点となり、物質の立体選択的合成についての方法論的研究が展開されました。そして現在は、酵素の巧妙な反応機構を有機化学的シミュレーションによってその方法に取入れることがテーマとなっています。酵素は御存知の通り、高度に機能化された高分子蛋白解媒ですが、一つの反応に限定すれば酵素よりもはるかに低分子で安定な反応試薬の合成が可能なはずです。省資源無公害を旗標にこの分野は世界的に仕事が進められていますがただその価値判断を見失わないようにしなければならないと思っています。今私は夏の休暇を利用して昔の有機化学の教科書をふりかえるとともに日頃の運動不足を解消するために子供に負けずに炎天下プールで泳いだり、近くの山にクモの巣をはらいつつ登ったりしています。

追伸・上記分野に興味をお持ちの方はいつでも御連絡下さい。

連絡先　〒611宇治市五ケ庄
京都大学化学研究所
Tel（〇七七五）三三一三一一
（内線　二一七〇）

遺伝子工学の尖兵として

大25　西澤 勉

月並みであるが、月日の経つのはほんとうに早いというのが今の実感である。大学を卒業しもう七年にもなるのだから。職の際には、当時オイルショック後の不況を契機に次第に企業は低成長時代へと移行しようとしている中で、最先端の技術を駆使し、個人の能力をフルに発揮できるようなベンチャービジネスにかけてみようと思っていた。なかでも、分子生物学に基づくバイオテクノロジーは今まで学んできた醗酵技術と合わせ考えると、非常に興味深いものであった。そんな折、湧永（ワクナガ）製薬から話が舞い込んだ。湧永製薬（?!）ハンドボールでその名を知っていたにすぎず、不安はあったが会社の姿勢・意気込みにかけた。分子生物学に関して殆んど素人の私を、阪大の松原謙一教授の下で勉強させてくれるというのだ。

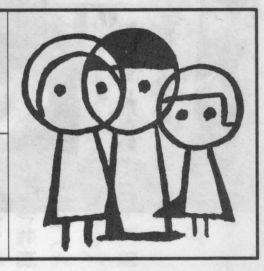
ちょうどそんな頃、遺伝子組換え技術を用いてソマトスタチンの大腸菌内生合成が発表され続いてインシュリン、成長ホルモン等々、次々と報じられた。日本におけるこの分野の研究の立ち遅れを痛感するとともに大いに意欲が掻き立てられた。遺伝子組換え技術の進歩は、単にこれら有用蛋白の大量生産への道を拓いたばかりでなく、遺伝子そのものを、そして、それにコードされた蛋白質のアミノ酸配列の解析をも容易なものとした。とりわけ、免疫グロブリン遺伝子の解析によって得られ、多くの知見に私は感動に身震いする思いであった。

松原研で、一年二ケ月、戸惑い乍らも大腸菌のF因子の複製に関する研究をしつつ、多くの技術・情報を得、一九八〇年六月に広島の片田舎にある研究所に戻り新しく分子生物学研究のために建築された研究室で研究に取りかかった。七人のスタッフで本格的に研究に取り組んで約半年後、日本で初めて、合成遺伝子を用いてデスアミドセクレチンの大腸菌内生合成に成功した。

この分野の仕事に携わって、まだ日は浅いが、生命の神秘を痛感させられるばかりだ。今のDNA合成技術を使えば、人類による生命の合成も夢ではないであろう。大腸菌ウィルスのφX174（5375個の核酸）程度のDNAなら、四人で遅く見積っても一年半で全合成が可能である。これら分子生物学の進歩によって着実にその歩みは進みつつあるが、生命の根本問題を解明するには、人類にとってまだまだ遠い道程のような気がする。

卒業後、京大農学研究科（醗酵生理学講座）で、メタノール資化性酵母の資化経路に関する研究で修士課程を修了した。就

会員名簿



新会員（大31）

〈勤務先と住所〉

渥美和生　鈴鹿市役所
〒510-02鈴鹿市徳田町59

有田隆之　京都府立大学大学院
〒663京都市北区小山中溝町14

飯田博樹　三重大学大学院
〒514-01津市栗真町屋町東浜山口ビル33号

稲垣卓次　四日市農業改良普及所
〒519-01亀山市阿野田町5

稲葉英樹　伯東ナルコ化学㈱
〒260千葉市高洲3－4－13高洲第一団地301

海尾千尋　大阪府立大学大学院
〒666-01川西市小原緑ケ丘7

小澤尚芳　多度中学校
〒512三重郡川越町大字亀須新田455

加藤純子　三重県食品分析センター
〒510四日市市川原町6－4

金田久代　台糖ファイザー㈱
〒470愛知県知多郡武豊町桜ケ丘1－1－2台糖ファイザー武豊女子寮

草川一樹　三重大学大学院
〒510四日市市阿倉川375

小出恭司　伯東ナルコ化学㈱
〒260千葉市高洲3－4－13高洲第一団地301

酒井昭弘　三重大学大学院
〒514-01津市栗真町屋町162

澤田雅史　三重大学大学院
〒514-22安芸郡芸濃町北神山4

杉野圭司　京都大学大学院
鈴木　智　三重大学大学院
〒514津市上浜町三丁目8

諏訪正夫　三重大学研究生
〒462名古屋市北区下飯田町2－14

滝野　卓　三重大学大学院
〒514-01津市栗真町屋町771

冨倉方
中村正人　三重大学研究生
〒515松阪市桜町27－7

福沢　修　四日市農芸高校
〒513鈴鹿市南旭ケ岡一丁目11－47　辻アパート

向井佳子　御木本製薬㈱
〒514津市半田2226－58

安村裕子　コーミ㈱
〒441-31豊橋市大岩町北田13－6

山本隆子　(財)日本缶詰検査協会
〒653神戸市長田区寺池町2－9－4三幸荘21号

新大学院修了会員（院16）

〈勤務先と住所〉

岩田将司　奈良県立田原本農業高校
〒636-03奈良県磯城郡田原本町保津128

近藤　隆　味の素ゼネラルフーズ㈱鈴鹿工場
〒513鈴鹿市南玉垣町6410

味の素ゼネラルフーズ㈱内澤野泰治　大関酒造㈱
〒653神戸市長田区六番町五丁目30

塩谷直美　東洋醸造㈱
〒410-25静岡県田方郡中伊豆町筏場31

高井　悟　名古屋市消防局
〒604名古屋市千種区内山二丁目3－15

吉野典生　高校教員
〒770徳島市佐古八番町1－24－1

小島　誠　農水省農技研
〒300-31茨城県新治郡桜村吾妻一丁目404棟420号

後藤邦夫　大陽化学㈱
〒510四日市市赤堀2－2－26

駒田　幸　日本合成ゴム㈱
〒514津市半田高松1262－40

近藤博己　四日市農芸高校
〒510-02鈴鹿市岸岡町3710ハイツ玉垣

原稿募集

会報「三翠化学」は会員相互の情報交換の場です。

会員の皆様は、それぞれの分野でご活躍され、大いに業績を積み重ねておられます。若い会員の皆様は、それぞれの職場でご研鑽にいそしまれご活躍中です。

この会報「三翠化学」の紙面で「今、私は」の企画で個個の皆様のご活躍を、又「職場紹介」で職場内での会員皆様のご活躍を紹介してもらっています。「社会人一年生」は新しく社会に巣立った新会員の自己紹介の場です。

会員の皆様、ふるってご投稿下さいますようお願いいたします。

三重県支部 設立さる

かねてから懸案の三重県支部が、三翠化学会設立十周年を契機として設立された。

母校の地三重県に在住する会員は、これまで、東海支部に所属して支部活動をしてきた。一方、三重県庁に勤務する会員(二十余名)や中、高校教員と大学に勤務する会員(三十数名)はそれぞれ県庁支部と教員支部をもち、重複したかたちの支部活動をしてきた。

しかし現在、三重県内に在住する会員と県内に勤務する会員を合わせると、二百名を突破したことと、支部の重層構造を無くすためにも、この二つの支部を包含したかたちで東海支部から分離、三重県支部を設立しようとの気運が高まった。そこで渡辺和己氏(専1)を中心に北勢、中勢・伊賀、南勢・紀州志摩の三地域でそれぞれ集会をもつとともに東海支部の了解も得て準備が進められてきた。そして今回の定期総会に合わせて、支部設立総会がもたれた次第である。

支部設立総会は、今井滋氏(大9)の司会、倉田三郎氏(専1)の議長で進められた。まず渡辺代表世話人の挨拶と経過説明ののち、支部規約の提案・説明を佐々木敏雄氏(専2)がし審議、決定した。つづいて支部役員の選出に移り、渡辺支部長はじめ三名の副支部長、四名の幹事を選任、委嘱した。また支部活動は、親睦を主として運営し、皆で参加し易い楽しい会にすることを申し合わせて会を閉じた。

記念植樹に一鍬づつ鍬入れしそろって合同祝賀パーティーにのぞんだ。

三重県支部設立を記念して

設立十周年を記念してケヤキを植樹

三翠化学会の設立十周年を記念して植樹することが一月二十九日の役員・評議会で決定されその具体化を企画理事が担当、樹種をケヤキとし、農学部校舎の前庭に植えることとなった。

このケヤキを総会開催時の五月に植えるには時期的に不適当であるため、予め適期に植えておくこととし、業者には化学四年生の父兄を選んで発注、三月二十二日に高さ六㍍余、胴回り四〇㌢のケヤキが植え込まれた。

植樹式は、五月十五日の総会閉会後、既に植えられている欅の根元に標柱を建てる穴をほり会長を先頭に、出席会員一人一人が一鍬ずつの土をかけ「三翠化学会　設立十周年記念　昭和五十八年五月十五日」と彫られた標柱を建て、それに代えた。

この欅は「苦節十年」を象徴するかのような風情ながら、三翠化学会の発展とともに、亨々たる大木に育ってくれることを祈念しながら次の行事、祝賀パーティーにのぞんだ。

記念樹「ケヤキ」

三翠化学会三重県支部規約

第一条　本会は、三翠化学会三重県支部と称する。

第二条　本会の事務所は、原則として津市内におく。

第三条　本会の会員は、三重県内に居住または勤務する者および当支部設立の趣旨に賛同する三翠化学会員であるものとする。

第四条　本会は、会員相互の親睦を深めるとともに、三翠化学会の発展と結束強化に

ことを目的とする。

第五条　本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

①会員相互の連携と情報交換に資するための事業

②その他必要な事業

第六条　本会に、次の役員をおく。

①支部長一名、副支部長三名および幹事若干名

②支部長、副支部長は総会において選出し、幹事は支部長が委嘱する。

③支部長は会務を総括する。副支部長は支部長を補佐する。幹事は会務を処理する。

④役員の任期は二年とし再任を妨げない。

ただし、補充役員は前任者の残任期間とする。

第七条　本会に、次の会議をおく。

①総会および役員会

②会議は必要に応じて開催し、支部長が招集する。

③会議の議長は出席会員の互選により、議事は出席者の過半数で決まる。

④総会は、規約に関する事項、その他必要な事項を審議する。

第八条

①本会の経費は、会費およびその他の収入をもって充てる。

②会費は、必要に応じて徴収することができる。

附　則

①すでに組織された三翠化学会関係のそれぞれの組織については、相互補完の関係維持に努める。

②この規約は、昭和五十八年五月十五日から施行する。

三重県支部役員

支部長　渡辺和己(専1)

副支部長　倉田三郎(専1)　佐々木敏雄(専2)、市川　淳(専3)

幹　事　鈴木幸郎(専3)　今井　滋(大9)、杉崎　護(大16)、辻　静夫(大19)

川魚大漁大会

三重県支部

後記

三重県支部 親睦,川魚大漁大会開く
―東海支部協賛のもと―

本年発足した支部の設立を祈念するとともに会員のコミュニケーションを図る目的で、去る八月七日、伊勢市宮川河畔において「ススキ狩り」を、東海支部の協賛を得て開催しました。

役員一同心配していた天候も恰好の夏日和となり、朝早くから渡辺支部長を先頭に南勢地区の方々が会場の設営や参加者の出迎えに当ってくれました。

はるばる愛知県から来られた毛利広明、酒井敏秀氏等、大学在勤の方々、卒業以来の顔ぶれ等々家族を含め約七〇名が集合し、たちまち懐談でワイワイとなり、早くも大会の目的が達成された観がありました。

十二時半、漁師が追い込んでくれた仕切り網(水深四〇センチ、広さ三〇〇平方メートル)の中に入り、タモですくう者、手でつかむ者、一同童心に返って大はしゃぎ。

奮闘の結果、ススキ(三〇―四〇センチ)四〇本、ニゴイ(三〇―五〇センチ)四〇本、ウグイ、フナ三〇本を水揚げしました。

二時より、テントの下で取りたてのススキ、東由一氏提供のカツオの活づくり、アユ、ネギマなどの串焼をさかなにビールで乾杯。

四時、さすがは紳士淑女、総がかりで河原を清めたのち、惜しみながら散会しました。

おわりに当り、企画・諸準備に尽力下さった清水利一、市川淳夫妻、鈴木幸郎、今井滋、藪本義雄氏を始め各地区ならびに東海支部の世話役の方々に深謝の意を表します。

今回の盛況を踏まえ、役員一同、来年は美杉村の演習林で楽しい集いをと今から張り切っていますので、大勢参加の程よろしく。

なお、当大会の決算は次のとおりでしたので紙面を借りて報告させて頂きます。

収入	化学会基金・三翠連絡協より	30,000(円)
	田川知事・岡田会長寄附金	20,000
	当日参加会費	240,000
	合　計	290,000
支出	大網代	180,000
	諸材料及び謝金	72,475
	通信費・写真代	37,525
	合　計	290,000

(佐々木　記)

大漁会 六首

専2　佐々木　敏雄

夏鶯の声聞えくる川原に
集ふ吾等のテントを張りぬ

少年の日のありありと甦る
栗石なめる川を渡れば

遠空に湧く積乱雲さへ親しかり
集ひて鮎を焼く川原に

億を商ふ清水君鮎を焼きくるる
テントの外の炎暑の河岸に

対ふ岸の低き竹群ゆるがせて
鮎焼く河原に風渡りくる

魚焼きし原を清めてにとやかに
おのおの車に別れゆくなり

会費納入のお願い

三翠化学会は、皆様からの会費によって運営されております。会費が十分に集まりませんと、会の活動に多大な支障が出てまいりますので、どうぞ御協力下さい。

各会員の会費納入情況を示す紙片を同封しましたので、御確認の上、未納分がありましたら振替用紙にて御送金下さいますようお願いします。

なお、御送金とこの通知が行き違いの節はお許し下さい。

(会計幹事)